

国鉄千葉動力労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)
電話 | (公) 千葉 2935・2936 番
(鉄連) 千葉 (22) 7207 番

91.12.9 No.3509



11.22、26スト破り 斜弾！ その2

JR千葉支社の労務政策にのみ固執するが故の惨たんたる状況は、スト立上りの際にかくしようもなく露呈されました。

「立上りとは列車を動かすこと」

一月三日、前日に引き続き、朝から開催された団体交渉の中で、動労千葉は、

- ① 列車が止まることによつて道路が渋滞することなどを総合的に勘案し、社会的に明示した時間に列車を動かすことはJR労使共通の責任である。
- ② ストが終了する以上、列車の運行をスムーズに開始する(立上る)ことを最優先に考えるべきであり、支社・本部と現場・支部の連絡を密にすべきである。ことを強く主張しました。

「交渉の余地は一切ない！」

これに対し、千葉支社当局は、

- ① 労使の窓口は千葉支社動労課であり、その他は一切話し合わない。
- ② 立上りは組合の責任であり、会社の言う通り乗務員を送り込めばよいのであり、交渉したり、協議したりする余地は一切ない。という態度に終始しました。

「立上り」の内容をファックスで送りつける

動労千葉は、この千葉支社の労務政策優先

のムチャクチャな対応に対し、腹に据えかねる怒りをもちつつも、「一月三日、一六時立上り」を社会的に明かにしてきた経緯に踏まえ、「乗務員の送り先等、立上りに必要なことを早急に明示するよう」要求しました。これに対し千葉支社当局は、「スト突入前には明示できない。スト突入を待つて直ちに提示する」と回答しました。

動労千葉は「まともに立上りをやる気があるのか」と強く抗議しましたが、事態は、さらに驚くべき展開となりました。

「スト突入」の二時を過ぎても「立上り」の内容が一向に明示されないのです。

そして、二時一五分に至り、NTTのファックスで「立上り」の一部が送りつけられてきたのです。

しかも、この「一枚目」から延二三枚のファックスが「訂正」も含めて、「でき上った順」に、ポツリポツリと送りつけられ、「最後の一枚」が送りつけられたのは二四時一分だったのです。

「列車運行能力喪失」

この延々二時間に渡つて送りつけた「立上り」の内容(これ自体不十分なものであり、今後の闘争課題として考えなければならない)を、正式なものとして「窓口」の動労課が動労千葉へ届けてきたのは二五時一〇分です。

これで、組合に対して「一六時立上り」を責任をもってやれというのです。

無責任という言葉は、列車運行能力を喪失したJR東日本千葉支社のためにあると言っても、決して過言ではありません。

(さらに続く)

11.29 幕張支部 第4回定期大会 開催

「全解雇者・強制配転者の原職奪還を」石幡支部長

一月二十九日、幕張支部は、第一四回支部定期大会を千葉市文化センターにおいて支部組合員五〇名をこえる結集の下で、成功をもちとつた。

大会は、高橋君を議長に選出し、本部より中野委員長、中江船橋市議を迎え、開会された。

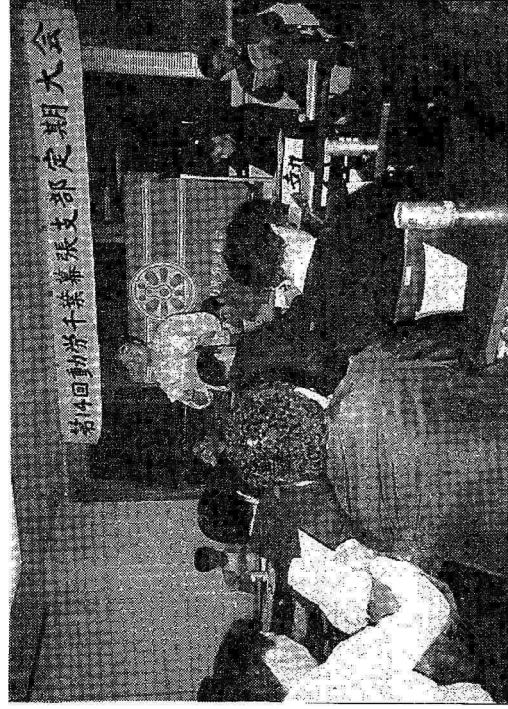
あいさつにたった石幡支部長は、「JR東は、動乗勤などをはじめ勤務制度を改善し、三月ダイ改に於いて、五万人体制への布石と打とうとしている。われわれは、この合理化粉砕闘争

の先頭に。解雇者・強制配転者の原職奪還を。」と全組合員の総決起を訴え、方針提起に於いては、組織拡大・強化のために全力を尽くそうと提起した。

また、質疑応答では、①物販にお酒を加えて。②初任給と現在の賃金との格差が余りなくなっている。改善を。③掲示板を奪っているのは不当だ。解決を。④出向・定年問題の改善を。などの意見が出され、本部から答弁を受けた。

その後、方針、予算、新役員を満場一致の拍手で確認し、大会は終了した。

幕張支部は、管理者以外JR総連のいない職場という自負のもと、全力で闘うことを決意している。



反合・運転保安確立！ 反戦・反核を担う労働運動を！